

enocoのそうだん [eno so done!]

相談シート16 プロポーザルの仕様は極力ゆるく、柔軟性をもたせること

[トップ](#) >> [enocoのそうだん \[eno so done!\]](#) >> 相談シート16

アドバイザー

醍醐 孝典 (studio-L ディレクター/東北芸術工科大学准教授)

1976年大阪府生まれ。大阪府立大学大学院修了。兵庫県、(財)京都市景観・まちづくりセンター等を経て2006年よりstudio-Lに参画。全国で地域まちづくり支援やコミュニティデザインに携わる。大阪では水都大阪2009「灯りプログラム」のディレクションなどを担当。東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科准教授、総務省地域創造力アドバイザー。共著書に、『まちづくりコーディネーター』（学芸出版社）、『地域を変えるデザイン』（英治出版）など。



相談者

大阪府某部署

相談分野（キーワード）

地域活性

市民協働

観光

まちづくり

文化

広報・PR

その他

主な相談内容

企業と地域の協創によって商品開発する事業について、事業の企画・運営を行う事業者をプロポーザルで公募する場合の仕様を組み立てるコツについて聞きたい。

A

仕様書は極力ゆるく、制限を設定せず組み立てて、実施の際に臨機応変に対応できる仕様にするべきです。仕様書作成段階での内部の説得は大変になるが、最初にガチガチに固めてしまうと、実施の際に行動しにくくなります。

ポイントは、プロセスを示すことを要求する仕様にする。

①課題をワークショップで見つけて、②アイデアを考えて叩いて、③ビジネス化する。というプロセスを大事にして組み立てるとよいでしょう。また、現場の視点を取り入れる機会を早く設けることも重要です。

相談者の声

相談の時間がもう少し長い方が嬉しいです。お話をしていると、どんどんと想像力をかきたてられるので、もう少しお時間をいただいて、今まで発想していなかったようなことを事業に盛り込むようなことをしてみたいと思いました。

バナー広告募集

- > enocoについて
- > 事業紹介
- > フロアガイド
- > レンタルスペース
- > お知らせ・プレスリリース
- > メルマガ登録
- > ニュースレター
- > お問い合わせ
- > アクセス

いいね! 0

ツイート

